

国東市学力向上アクションプラン(令和3年度版)

令和2年度

1 令和2年度の学力の状況											
■令和2年度大分県学力定着状況調査結果(偏差値)											
小学校	国語		算数		理科						
	区分	知識	活用	知識	活用	知識	活用				
	国東市	未実施									
大分県	51.8	51.6	52.1	51.2	50.9	50.3	※大分県は市町村立学校の数値				
中学校	国語		社会		数学		理科		英語		
	区分	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
	国東市	未実施									
大分県	53.0	53.0	52.8	51.3	53.4	51.5	51.2	50.5	51.6	51.3	※大分県は市町村立学校の数値
■学力の状況(市町村としての認識・捉え)											
・昨年度、中学2年生の県学力調査において、県平均を上回ったのは英語の知識のみだった。 ・小学校、中学校ともに知識よりも活用が低く、課題ととらえられる。 ・子ども主体の授業により思考力・表現力・判断力を伸ばしていく必要がある。											
5 今年度中にやるべきこと(R3.1~R3.3の取組)											
・今年度の研究は校内研究に絞って行ったので、各学校は校内研究の総括において、今年度の成果と課題及び来年度へ引き継ぐべき内容をまとめる。 ・国東市学力調査の結果を分析し、課題となる内容について対応策を策定し取り組むことで、年度内に定着させる。											

2 令和2年度の目標及び指標・達成状況	
目標	目標の達成状況
1 国東市学力調査力において、全国平均以上(偏差値50以上)の項目を小学校30/30項目、中学校17/20を達成する。 2 管理職、主要主任、指導教諭等を中心として各学校の課題に応じた主体的・組織的な授業改善を推進する。	・学力調査の結果は未確認。 ・校内での組織的な研究により、課題の提示や個別の支援を中心に授業改善が進んだ。
達成指標	取組指標
1-1 国東市学力調査の同一集団経年比較において、前年度偏差値以上を達成した項目を小学校22/24項目、中学校14/16項目にする。【R01小学校 17/24 中学校 5/16】 1-2 国東市学力調査において正答率が5割未満の児童の出現率5%以下の教科を10/15以上に、正答率が5割未満の生徒の出現率30%以下の教科を6/10以上にする。【R01小学校5/15、中学校2/10】	1 授業改善の日常化を強化するために、年度当初の校長・教頭・教務主任会において、授業改善に係る焦点化した重点を提起し、校長会で確認したり教務主任会や研究主任会で演習を行った。また、取組の徹底を図るために、要請訪問時にもその点について点検する。 2 外国語教育の指導力向上を図るために、小学校外国語教育の研修を全5コース設定し、すべての小学校教諭がそのいずれかを選択し、研修を行う。また、中学校英語科教員は小学校とのつながりを授業改善に生かすために、市が主催する小学校外国語教育研修会あるいは小学校外国語(活動)の公開授業に1回は参加する。 3 各小・中学校は校内研を充実させ、授業改善を進めるために、授業力向上アドバイザーを積極的に活用し、一度は校内研修に招聘する。市教委は、授業力向上アドバイザーに研修の講師等の指導的な役割を与える。 4 教育委員会が、中学校教科研修協議会を3回以上実施し、全中学校教員が参加する。 5 教育委員会が、著名な指導者による公開授業及び講演会を年間1回実施し、全小・中学校教員が参加する。また、公開授業・講演会後は、要請訪問、主任会等において、公開授業、講演の内容と新大分スタンダードをつなぐ役割を担い、新大分スタンダードの質の向上を図る。
達成率	達成状況
56%	同一集団経年比較において、前年度偏差値以上を達成した項目は小学校14/24項目、中学校6/16項目の合計20項目だった。
S~C	
C	
達成率	達成状況
38%	正答率が5割未満の児童の出現率5%以下の教科は2/15、正答率が5割未満の生徒の出現率30%以下の教科は4/10だった。
S~C	
C	
達成率	達成状況
124%	学校評価の4点セットの学力に関する重点目標の全ての項目の達成状況A以上の学校の数は8校で62%だった。
S~C	
S	

3 令和2年度の人的支援の効果	
授業力向上アドバイザー	習熟度別指導推進教員
2名のアドバイザーが、ステップアップ研修(Ⅰ及びⅡ)対象教員及び35歳未満の教員(臨時講師及び非常勤講師を含む)計24名を対象に支援を行った。対象者の所属する学校を訪問し、授業力向上に向けて授業観察や指導助言を行った。また、授業力向上のみならず、生徒指導や学級経営等についても継続的にアドバイスすることができた。アドバイスの内容は当該校の管理職と共有され、成果や課題を共有することで日常的なOJTにつなげることができた。	数学の習熟度別指導推進教員を配置し、2年目の取組を進めた。習熟に応じた課題や手立てが講じられることにより、授業に集中できにくかった生徒が集中して参加するようになった。また、ペアやグループの活動を目的をもって積極的に取り入れることで、生徒が表現する機会が増え、主体的に学習に取り組む姿が見られた。
小学校教科担任制推進教員	4 県指定校について(設置者としての支援とその効果)
3校の推進校は推進教員を中心として昨年度の成果と課題をもとに取組を進めることができた。系統性をつかむことによる教材研究の充実や多角的な生徒指導、週あたり平均7.7時間の空き時間の有効活用など、有効性を確かめることができた。また、課題についてはその解決方法を学校全体で考え、取り組むことができた。児童アンケートの「教科によって授業をする先生が入れかわる『教科担任制』は、よい方法だと思いませんか。」への肯定的回答率(3校の平均値)が91.4%(6月)から94.8%(11月)に向上している。	推進校3校ともに公開授業を行い、取組の成果と課題を発表した。参加者は教科担任制の様子を実際に参観し協議会に参加することで、今後の方向性を理解することができた。今年度は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、公開授業には小学校だけの参加としたが、今後は中学校からも参加するようにし、小中の連携が深まるように支援をしていきたい。
■3つの提言推進拠点校	

令和3年度

6 令和3年度の目標及び指標	
目標	達成指標
1 国東市学力調査の同一集団経年比較において、前年度偏差値以上を達成した項目を小学校(義務教育学校前期課程を含む)17/24項目、中学校(義務教育学校後期課程を含む)8/16項目にする。 2 管理職、主要主任、指導教諭等及び授業力向上アドバイザーや拠点校指導教員を中心として、校内の若手教員のニーズに応じたOJTを組織的に推進する。	○授業改善の日常化を強化するために、年度当初の校長・教頭・教務主任会において、授業改善に係る焦点化した重点を提起し、校長会で確認したり教務主任会や研究主任会で演習を行った。また、取組の徹底を図るために、要請訪問時にもその点について点検する。 ○教育委員会が、中学校教科研修協議会を3回以上実施し、全中学校教員が参加する。 ○英語教育の充実及び小中の連携を深めるため、小学校外国語教育研修会や小中学校の英語教育推進校による公開授業を実施し、それぞれに小学校教員及び中学校英語科教員が参加する。 ○教育委員会が、著名な指導者による公開授業及び講演会を年間1回実施し、全小・中学校教員が参加する。また、公開授業・講演会後は、要請訪問、主任会等において、公開授業、講演の内容と新大分スタンダードをつなぐ役割を担い、新大分スタンダードの質の向上を図る。 ○教務主任会において若手教員への指導案の作成等に係る指導の在り方に絞った研修を行う。 ○授業力向上アドバイザーを派遣し、面談やアンケートにより若手教員のニーズを把握したうえで指導を行い、指導経過を管理職と共有することで日常的な指導につなげる。
取組指標	達成率
1-1 国東市学力調査の同一集団経年比較において、前年度偏差値以上を達成した項目を小学校17/24項目、中学校8/16項目にする。【R02小学校 14/24 中学校 6/16】 1-2 国東市学力調査において正答率が5割未満の児童の出現率5%以下の教科を5/15以上に、正答率が5割未満の生徒の出現率30%以下の教科を6/10以上にする。【R02小学校2/15、中学校4/10】	46.1%
2 学校振り返りシートの「管理職のみならず、ミドルリーダーにも役割を与え、OJTに工夫して取り組みながら、キャリアステージに応じた人材育成を組織的に進めている」の市教委評価においてS評価を50%以上にする。【R02中間評価	

7 令和3年度の行動計画	
①小学校・中学校英語教育の推進	②「中学校学力向上対策3つの提言」の更なる強化
<小学校>【推進校】富来小学校 ○推進校は、子どもが主体的にコミュニケーション活動に取り組む授業のあり方やデジタル教科書及び市内共通教材の活用、ALTとの連携等について研修を深める。【新】 ○推進校は、令和3年度及び4年度の年1回の公開授業に向け、他地域の研究会に積極的に参加し、自校の研究に生かす。【新】 ○市教委は小学校外国語教育研修会を開催し、授業改善のポイントを確認したり各学校の実践や推進校の実践を交流したりすることで研修を深める。 <中学校>【推進校】国東中学校 ○推進教員は、年1回の公開授業を開催し、生徒の英語力の向上と市内英語科教員の指導力の向上につなげる。【新】 ○市教委は、全中学校2年生と3年生を対象にGTEOを実施し、4技能の習熟の状況を客観的に把握するとともに、課題となる技能については日常の授業で意識的に活動を取り入れるようにする。 <小・中連携> ○小中の連携を深め、小学校の取組を授業改善に生かすため、中学校英語科教員は市が主催する小学校外国語教育研修会及び小学校英語教育推進校の公開授業に参加する。【新】 ○中学校英語教育推進教員の公開授業に各小学校からも参加し、中学校の英語学習の様子を知ること小学校の授業改善に生かす。【新】	○学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底 ア 生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業を充実させるとともに、習熟度別指導を積極的に導入する。 イ 教科の壁を越え、全ての教科に共通した授業改善の取組内容を設定し、その視点に基づく互見授業・授業研究を実施する。 ○教科指導力向上の仕組みの構築 ア くにさき地区教育研究会の教科部会を年間4回実施し、児童生徒の課題解決のための研究を進めたり、授業研究会を実施したりして、教科指導力の向上を図る。 イ 国東市中学校教科研修協議会を年間3回以上実施し、活用問題の交流をしたり、先輩が後輩に対して効果的な指導方法等を引き継いだりして、教科指導力の向上を図る。 ○「生徒と共に創る授業」の推進 ア 各学校が教育課題に即したアンケートを作成し、毎学期末実施することで、生徒の声を授業に反映させる。 イ 学校が目指す授業像を生徒と共有し、それに向かう学習集団としての目標を設定させ、適宜振り返り活動を行う。
③若手教員の授業力向上に向けた取組	④小学校教科担任制の更なる推進
○学校は校内研修においてそれぞれの学校の課題に応じた研究目標を設定し、OJTを進める。 ア 年度初めの校長・教頭・教務主任等会議において、授業改善に係る焦点化した重点を提起し、取組の徹底を図る。 イ 若手教員の課題を把握し、管理職や主要主任が連携してOJTを進められるよう、校長会及び教務主任会、研究主任会で指導する。 ○教育委員会が授業力向上アドバイザーをステップアップ研修対象者及び30歳未満の教員が所属する学校に派遣し、授業力向上をめざす。 ア 授業力向上アドバイザーは対象者及び管理職と面談を行い、対象者の課題を把握したうえで継続的な授業観察及びアドバイスを行う。 イ 管理職は授業力向上アドバイザーと指導内容を共有し日常的な指導につなげる。 ○教育委員会が、著名な指導者による公開授業及び講演会を年1回実施し、全学校教員が参加する。また、要請訪問等において、公開授業、講演の内容と新大分スタンダードをつなぐ、授業力向上を図る。 ○教務主任会で若手教員への指導の視点に絞った研修を行う。 ア 授業改善の重点をふまえた指導案の書き方について、若手教員にどのように指導を行うか演習を通して研修する。 ○新採用及び採用2年目の教職員を対象とした新採用教職員等入職教育研修会を開催し、部活問題学習の授業づくりについて研修を行い、部活差別についての知識・理解を深め、教職員としての資質向上を図る。 ○毎月1回、授業力向上アドバイザー連絡協議会を開き、県や市の施策を共有したり学校での指導の状況を共有したりして、その後の指導に生かす。	【推進指定校及び学年】 ○国東小学校の5・6年生、安岐中央小学校の5・6年生、安岐小学校の5・6年生 【実施教科】 ○国語、社会、算数、理科を中心に実施し、その他の教科については、学校ごとに年度当初に定める。【指定校での取組】 ○年間1回、公開授業及び実践発表会を行う。 ○児童や保護者に学期ごとにアンケートを行い、課題点を改善につなげる。 ○学校運営協議会等で取組を地域にも発信し、理解を広げる。 【効果測定】 ○国東市学力調査(12月実施) ○児童アンケートにより教科への愛好度や理解度の伸びを検証する。 ○進学先の中学校にアンケートを実施し、中学校入学後の適応の様子を確認し、検証に生かす。【新】 【市教委での取組】 ○市教委と推進教員による連絡協議会を年間4回開催する。 ○教務主任会において取組の発表を行い、取組の推進を図る。 ○公開授業及び実践発表会に中学校教員も参加するようにし、中学校での教科担任制についてや入学後の様子も含めて交流を行う。【新】